

# KWAIDAN 120

小泉八雲『怪談』出版120年

朗読 芝居  
小泉八雲

# 怪談

題字 水野裕子

小泉八雲記念館  
(島根県松江市)

後援

～語り手～

森 優子

2007年国民文化祭  
「語りの名人芸」出演

～脚本・構成～

鈴木之彦

2007年国民文化祭  
「語りの名人芸」脚本・構成

2024年9月29日(日)

～常磐線各駅停車馬橋駅徒歩2分～

松戸市馬橋 法王山萬満寺

開場17時00分 開演17時30分

全席自由 前売り 2500円  
(100席限定) 当日 3000円

企画 Office Y&Y

後援 東京労音

映画監督 大澤豊氏推薦  
式拾周年記念公演



# 朗読芝居小泉八雲「怪談」～20周年記念公演～

2004年に初演され、今年、20周年を迎える事となりました舞台、朗読芝居小泉八雲「怪談」。令和元年度芸術祭参加、日本照明家協会賞受賞など様々な評価を頂いて参りましたが、また新たに小泉八雲の精神性、朗読の面白さ、日本語の美しさをより高め、5年ぶりに上演致します。洗練された不思議な時間と空間の世界をお楽しみ下さい。

— 推薦文 — 「超一級品の朗読舞台!!」 映画監督・大澤 豊

【語り手紹介】 森 優子 (もりゆうこ) 舞台朗読家・フリーアナウンサー。



その美しい響きの朗読は、多方面から高い評価を受けている。戦前の大俳優・丸山定夫の姪、女優・丸山由利亞に師事、主催する「語りと音楽の会」に入会し舞台朗読を学び、各公演に参加する。2002年よりOffice Y&Yにて様々な朗読舞台で活躍。2007年10月、徳島国民文化祭・「語りの名人芸」に出演、瀬戸内寂聴原作の「源氏物語・藤壺」を本人の前で朗読し絶賛される。2009年には瀬戸内寂聴記念館での太宰治生誕百年記念の朗読会を任せ、2日間で6作品を朗読する。また2012年の国民文化祭では、三人使い人形と音楽と朗読のコラボレーション舞台『新釈・姥捨山』で朗読の新しい可能性を示す。

日常の延長で朗読や音楽を楽しめる時間を作りたい、と始めたクラシック音楽と朗読をコラボレーションした「森優子朗読ライブ・ティータイムコンサート」をライフワークとして毎年開催。その他20名の小スペースから1200人の大ホールまで、場所を選ばず質の高い朗読会を行なっている。希望に応じて朗読ワークショップを行い、他の朗読教室では学べない舞台朗読の形をきめ細やかに指導している。

【脚本・構成】 鈴木 之彦 (すずきゆきひこ)

2002年より舞台朗読家の森優子氏とOffice Y&Yを立ち上げ、朗読舞台の脚本・構成を務める。森優子朗読ライブを始め、朗読芝居・小泉八雲「怪談」、翔び出す立体朗読「明るい太宰治」、朗読活劇「江戸川乱歩」など正統派の朗読の形、舞台の美しさににこだわり舞台創りを続けている。2007年国民文化祭「語りの名人芸」にて瀬戸内寂聴氏の源氏物語「藤壺」を脚本・構成し瀬戸内氏から絶賛される。また、朗読以外の音楽コンサートや舞台の構成を独自の感覚で構成し、オリジナリティ溢れた舞台空間を創り上げている。映像・音楽・効果音を一人でこなすマルチな面もある。

【萬満寺御紹介】

萬満寺は、鎌倉時代の初期、建長8年(1256年)千葉介頼胤により創建された一休宗純で有名な臨済宗大徳寺派の古刹。御本尊は中氣不動尊で、古くから厄病除けとして信仰され、特に中風や足の病によく効くといわれ春と秋の大祭と正月三が日には仁王尊が御開帳され、仁王の股くぐり(厄除け)が行なわれます。大祭には、「不動まつり」(中気よけ)と「唐椀供養」が行なわれます。仁王門に安置されている「阿(あ)」「吽(うん)」の木造金剛力士像は、鎌倉時代の仏師・運慶の作といわれ国の指定文化財です。また高村光雲(作家高村光太郎の父)が、長野・善光寺の仁王像を造るときに萬満寺の仁王像を参考にしました。また、木造不動明王像、豊臣秀吉の制札が松戸市の文化財に指定されています。

【お問い合わせ・お申し込みは】

TEL 047-365-9911

労音東葛センター または  
yandyplanets@yahoo.co.jp

Office Y&Yまで

